

1976. 12

教養図書館 冬休み中の 長期貸出及び休館日

長期貸出

期間 12月13日(月)から

1月12日(水)まで

冊数 1人3冊まで

休館日

年末 12月27日(月)から休館

年始 1月4日(火)まで休館

〈冬休み中の 学内他館の案内〉

① 白金図書館

長期貸出 期間 12月9日～1月14日

冊数 1人3冊

休館日 年末 12月27日から休館

年始 1月4日まで休館

但し

{ 1/5(水)～7(金)
9:00～4:30
1/8(土) 9:00～12:00
1/10(月) から平常通り }

② 医学図書館

長期貸出 期間 12月22日～1月6日

冊数 制限なし

休館日 年末 12月28日から休館

年始 1月4日まで休館

③ 衛生図書館

長期貸出 期間 12月6日～1月14日

冊数 1人3冊まで

休館日 年末 12月27日から休館

年始 1月9日まで休館

新書のコーナーが
できました。

皆さんに気軽に利用していただくという目的で、今度閲覧席寄りに新書のコーナーを設けてみました。

中公新書、講談社の現代新書、岩波新書の3新書を昭和50年出版分より揃えて置いてあります。

どんどん利用して下さい。

(11月の新着の中から一部紹介)

- ▶ 團 伊玖磨・小泉 文夫 共著
日本音楽の再発見
(講談社 現代新書 462)
- ▶ 藤原 英司 著
アメリカの野生動物保護
(中公新書 444)
- ▶ 荒井 良 著
胎児の環境としての母体
— 幼い生命のために —
(岩波新書 976)



「読む、そして……。」

桂 芳 久（文学）

作家の杉浦明平は、1ヶ月に1万ページの本を読破することを決意し、実行しているという。1万ページという量は、ちゃんとした単行本の平均ページ数が約400前後であるから、25冊相当である。おおよそ1日1冊の部厚い書籍を読了することとなる。

斜め読み、速読法など読み方はあるが、和書の場合は平均1時間、100ページの速度が、一つの能力のバロメーターとなるそうだ。すると1冊の本を読むために1日4時間の読書時間が必要である。勉強するということは、まず最低これだけの努力が要求される。

芥川龍之介は学生時代に自分の一生に読む本の数を計算し、わずか5千冊でしかないことに気づいて絶望したそうだ。そのとき、33才の若さで自裁するとは考えていなかったのであるが。

芥川の時代は、それでも人生50年とっての

上であろうが、現在のように平均寿命が70才をこえるとなると問題も大きくなる。18くらいから読書年齢に入って、50数年は持続しうるのである。1ヶ月1万ページ、25冊の速度で読むと、1年間に300冊、50年間に約1万5千冊、これが一人の人間が一生涯に読破できる限界かもしれない。杉浦明平はすでに60才を過ぎているが、この秀れた読書家は1万冊の和洋書を読んだという。一方では彼は渥美半島の父祖の地で村長をして貧しい人々のために献身してきた。単なる本の虫、書斎の人ではない。こういう人を本来の意味で《インテリゲンチユア》と呼ぶのであろう。

本を読むことはどういう意義があるのか。なんのためなのか、といった根源的な問題を考えさせられる。

「本と私」

奥 井 一 満（生物）

私も教師の一人として本に無関心と言う訳には行かない。何等かの形でかわりをもっている。私は、だから本には「見る本」「読む本」「使う本」があると思っている。「見る本」は気軽にページをくれるものだ。気にもとめず、負担にもならず楽しいものだ。「読む本」はやはり読むぞとかまえてしまうので能率があがらない。大体、私は蔵書家と言うのは信ずるが、読書家あるいは趣味読書と言うことを信用しな

い。何故なら、一年は365日、一日一冊確実に読んでも365冊だ。そんな調子で読める訳はない。万卷の書を読むは、だから信用しない。多分、眼を通したに過ぎないだろう。一生のうちで本気で読む本数は少ない。恐らく数十冊がよいところだろう。そして、読む年代や、知的成長に応じて興味や感動は違うから、何が良書か人に薦めることもできない。15、6の時にはデミアンやダフニスとクロエを良いと思い憧れた。

小学生の時は、フジタミツコのカミサマのオハナシや、浜田広介をしきりに読んだ。ヨタカの星は、子供の時と今では印象が大分違っている。40の今、ジョージ秋山の浮浪雲なんか結構面白いと思って読んでいます。読むことは活字の裏を見出すことだ。書かれない部分を見ることは、読み手の経験と相関する。共感を呼び読む本は意外に少ないのである。その意味では文部省推薦を初めとして、推薦図書にはナチの優生学のような危険がある。読む本は自分で探し、出あわなければ何の意味もない。「使う本」、これは書斎の装飾も含めて退屈なものだ。論文を書

くため、講義のため、有無を言わず買わされ眼を通させられる。それを見ておかねばならないからだ。実はこの手の本が私の周囲にどんどん増えて行く。そして家族からは邪魔にされる。それを読まねばならぬと考えることは苦痛だ。だから私にとっては、本は、見るに楽しく、また退屈な存在なのである。



提案箱から

~~~~~

- ① 書架に代本板を入れて即、誰が借りて行ったか、わかるようにしてはどうですか。本の紛失などがなくなるのではありませんか。
- ② 借し出しがやかましい。閲覧証を忘れた場合等も考えてもらいたい。
- ③ 電話帳を置いて下さい。

① 以前、別置図書（一般書架以外に配架してある図書）について、その所在がわかるように代本板を使用していた時期がありますが、作業（代本板の出し入れ）が煩雑な為、現在は行なっておりません。従って、日常の貸出図書について代本板を使用する事は、現行では不可能と思われます。又、誰が借りているかわかるようにしてとの事ですが、個人の思想チェックになる恐れがあり、読書の自由を侵

す事にもなりかねません。

読みたい本が書架にない場合は、カウンターに尋ねて下さればいつ返却になるかわかると思います。それから、本の紛失と代本板の有無とは無関係と思われます。

② 図書館を利用する際には一定の<sup>ルール</sup>規則があります。それを知っていたゞ為に新入時に、「しおり」を配り、オリエンテーションを行っています。規則に従って利用すれば、図書館も面倒なところではないと思います。教養図書館では、閲覧証提示が貸出、閲覧の際の重要なチェックポイントになっていますので、必ず図書館を利用する場合には閲覧証を携帯して下さい。

③ 電話帳は、人名録としても使える便利なものです。ご希望により、全国の電話帳を揃える事は不可能ですが、神奈川版、東京23区、都下版を参考図書コーナーに、並べる事になりましたので利用して下さい。

## 今年度重点収書について

教養図書館では主として一年次教科用、一般教養及び教科関連研究図書を中心として、収書（購入）しています。その中でも特に各年度毎に焦点をしばって集めているものを、重点収書と呼んでいます。今年度は、(1)地方史、(2)貴重書・覆刻版、(3)教科基本図書、(4)畜産学部・水産学部一年次生向け図書を取上げました。(1)の地方史は神奈川県を中心として旧相州・武州関

係図書、(2)は発行部数が少なく、往々、高価なため一般に入手し難いもの及びそれらの覆刻、(3)は主として Reference Tools です。(4)は両学部共、当相模原キャンパスから遠く、学部図書館利用が不可能なことを考慮しました。

以下は11月末現在で受入（入荷）しているものの一部をこゝでご紹介します。なお詳細についてはカウンターにお訊ね下さい。



### (1) 地方史関係

- ・武相叢書，石野 瑛編，名著出版
- ・地方史文献目録，阿津坂 林太郎，巖南堂
- ・近世神奈川の研究，村上 直，名著出版
- ・町田近代百年史，町田ジャーナル社

### (2) 貴重書・覆刻版

- ・國譯一切経，印度撰述部の117巻まで  
和漢撰述部の一部  
以上大東出版社

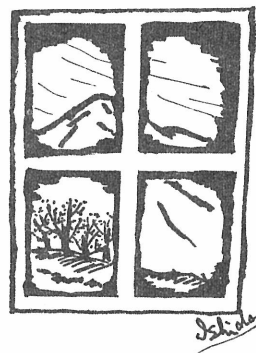
### (3) 教科基本図書

- ・Handbuch der Physik (Encyclopedia of Physics) herausgegeben von S. Flügge, Berlin, Springer Bd. 1 - 54
- ・CRC Atlas of Spectral Data and

### (4) 畜産・水産関係

事務手続き上、畜産関係は受入が遅れていますので水産関係に限って一部、掲載します。

- ・赤潮，岩波 英雄，海洋出版
- ・赤潮，柳田 友道，講談社
- ・原色用魚類検索図鑑，阿部 宗明，北隆館
- ・偉大なる航海者たち，P. H. バック，社会思想社
- ・生きている化石，浜田 隆士，保育社
- ・地震予知，檀原 毅，海洋出版
- ・海中探検，K. ロスコ，主婦と生活社
- ・貝の博物誌，波部 忠重，保育社
- ・海洋の生態代謝，ハイロフ，築地書館
- ・蟹の博物館，小田原 利光，緑書房
- ・相模原市史，相模原市編，（寄贈受入）
- ・新編 相模国風土記稿，名著出版
- ・多摩の歴史，武蔵野郷土史刊行会
- ・横浜市史稿，横浜市，名著出版
- ・An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations by Adam Smith in Two Volumes. London, W. Strahan & T. Cadell (A. スミスの国富論)，雄松堂
- ・Physical Constants for Organic Compounds 2nd ed. in 6 Vols. ed. by J. G. Grasselli & W. M. Ritchey CRC Press
- ・The International Encyclopedia of the Social Sciences 8 Vols. McMillan
- ・鯨の話，小川 鼎三，中央公論社
- ・ナマコとウニ，大島 宏，内田老鶴圃新社
- ・プランクトンの世界，A. オー  
ル，講談社
- ・ルポ 鯨の話，  
小松 鍊平，朝  
日新聞社
- ・さかなの干物，竹井誠  
石崎書店
- ・魚の紳士録(及び続編)，  
木村 重，緑書房  
他



閲覧ニュース 15号 1976. 12. 10 発行  
北里大学教養図書館

発行責任者 綱 島 竊